

安値受注前年度の半分

第1四半期 防止対策に効果か

国土交通省は1件100万円以上の発注工事を対象に、本年度第1四半期（4～6月）の契約状況（速報値）をまとめた。低入札価格調査を経て契約に至った工事は74件と、06年度第1四半期の153件から大幅に減少した。全契約件数に占める低入札価格調査の発生率も、前年度同期の7・70%から3・60%へと半分以下に低下。同省直轄工事で著しい安値入札が増加する以前の水準にまで戻った。昨年12月に発表

した緊急公共工物品質確保対策（ダンピング受注防止策）の効果とみられる。WTO政府調達協定が適用された一般競争入札（予定価格7・2億円以上）に限ると、低入札価格調査の該当案件はなかった。

第1四半期に同省が契約別内訳は、一般競争入札（低入札価格調査があった工事）（港湾空港関係）（2億円以上）が65件、た案件を工種別に分ける係を除くは2030件。工事希望型競争入札（1と、▽維持修繕27件▽低入札価格調査を経て契約）（2億円以上2億円未満）が一般土木15件▽造園11件▽建築6件▽電気設備6件

1など。月別の発生状況は6月9件と月を過つては4月36件、5月29件に減少している。6月の

9件の工種別内訳は▽維持修繕5件▽木造建築2件▽建築1件▽一般土木1件だった。低入札価格調査を経て最終的に契約を結んだ入札の件数は06年度に1192件（全契約件数に占める発生率は10・3%）と過去最多を記録。次いで年度後半から低価格入札が急増した05年度が942件（同8・1%）。

低入札価格調査の対象件数は02年度が481件（同3・0%）、03年度が496件（同3・8%）、04年度が492件（同4・0%）で、本年度は第1四半期を見る限り、安値入札が急増する以前の水準に戻っていることが分かる。同省は05年度後半に安値入札が急増したのを受けて06年4月に最初の対策を発表。その後も安値入札が増える一方だったため、同12月に追加策として緊急公共工物品質確保対策を打ち出した。予定価格2億円以上の工事について応札時を対象にした調査では、4月6月に入札した182件中、低入札価格調査基準を下回った案件は23件（同12・6%）となっている。